

# 5年3組・4組(すいほコース)算数科(単分量あたりの大きさ)

平成28年11月8日(火)2校時

## 習熟度別コースで、福井県と愛知県の人口密度を考えました。

### ①課題を知り、見通しを確認してから自分で考える

「福井県」と「愛知県」の面積と人口を挙げ、児童が関心を示しそうな「面積のわりに人口が多いのはどちらの県でしょうか。」という課題を提示しました。今までの学習から「1km<sup>2</sup>あたりの人口」または「1万人あたりの面積」を出すというよいと気づき、自分で解きやすい方法で解きました。

全体・個人【ノート】

### ②グループで解き方を説明し合う

4人のグループ全員が自分がどちらの解き方で解いたかを説明し合いました。電卓で計算しましたが、計算違いはないか、単位は何なのか、どちらの解き方が解きやすいかななどをグループで話し合うことができました。ほとんどのグループが計算しやすい「1万人あたりの面積」の方がよいと考えました。

グループ【ノート】

### ③話し合ったことを全体で発表し、応用問題に挑戦する。

各グループごとに話し合ったことを全体で発表し、解き方を確認しました。児童が「1万人あたりの面積」を選んだのが多かったため、改めて「面積のわりに人口が多い。」という表現に注目させ、そこから1km<sup>2</sup>あたりの人口を人口密度ということを理解しました。

その後、福井市、坂井市、鯖江市、大野市の人口密度を求める応用問題にチャレンジしました。

全体【ノート】

グループ内で課題の解き方を説明し合い自分たちの住んでいる地域や他教科で学習した県の人口密度を求めることができました。

(実践者 教諭 上田 順子)

### ①課題を知り、見通しを確認してから自分で考える。



### ②グループで解き方を説明しあう



### ③全体で話しあう



### 〈感想〉

- ・計算は電卓でも大変だったけれど、「福井県」の方が「愛知県」よりも人口密度が低いことが分かっておもしろかったです。
- ・福井市以外の人口密度も計算で出せたので、他の県や市も人口密度を出してみたいです。